

第28回 P I 外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年11月20日（木） 午後7時00分～9時05分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：23名

関係者（敬称略）

武田 佳登（練馬）、宿澤 藤子（杉並）、土肥 紀久（杉並）、濱本 勇三（武蔵野）、
村田 あが（武蔵野）、新 守一（三鷹）、富澤 和也（三鷹）、樋上 寛（三鷹）、
遠藤 好照（調布）、川原 徳重（調布）、渡辺 俊明（調布）、橋本 妙子（狛江）、
江崎 美枝子（世田谷）、栗林 勝彦（世田谷）

地方自治体

平野 和範（練馬区部長）、塩沢 忠彦（武蔵野市部長）、柴田 直樹（三鷹市部長）、
新谷 景一（調布市部長）、大川 宗男（狛江市部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官）、伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）、
道家 孝行（東京都外かく環状道路担当部長）、宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約50名

5. 概要：

- ・10月31日の大臣発言は、P I 協議会、沿線区市長意見交換会での議論を軽視している。狛江市は、11月18日に大臣宛に抗議文を出した。次回の区市長会で市長からも異議を唱える予定。
- ・センサスによると、埼玉外かん供用後の周辺道路の交通量は、ほとんど変化がないか逆に増加している。渋滞解消の名目で道路を新設しても、結果として可能交通容量、自動車総量は増加している。財政赤字は拡大し続け、大赤字になる見通し。
- ・外環整備後、環八の高井戸周辺の交通量が増加するのは、シュミレーションは外かんゼロICを条件に試算したため、高井戸ICを利用して地元から外環にのる車の影響が出ている。
- ・外環が整備されると、裏道を走っていた交通が環八などの幹線道路にもどり、生活道路への交通負荷が緩和される。これもメリットの一つ。
- ・「外環道による交通の変化」とあるが、ネットワーク条件は三環状であるし、この試算値は、現況配分で人口やGDPなどを考慮した将来交通量推計では無い。
- ・将来交通量は、全国値をもとにブロック別の将来推計値を作業している。
- ・大臣は青梅ICを作らなかった場合のデータを理解しておらず、大臣のゼロIC発言は不適切。
- ・大臣発言は、1月、3月方針に沿ったもの。外環道を整備するスピードを重視したあらたな問題提起と認識している。
- ・方針の表現は、ICをやるのかやらないのか理解ができない。もっとわかりやすく解説して欲しい。
- ・推計の仮定に外環の東名以南は入っていない。
- ・11月7日の日経新聞の、記事で「凍結は解除した」と知事が発言したとされている。これで数回目であり、住民にとって大変遺憾。東京都の担当者は「凍結は解除していない」ときちんときちんと知事に伝えるべき。
- ・「凍結解除」は国の問題であり、知事は様々な機会で「凍結解除」という認識で発言している。